

第12回 東北復興DX・i-Construction 連絡調整会議を開催(R5.2.27)

東北地域の建設現場においてDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進により生産性の向上や魅力ある建設現場を目指し、今年度2回目の連絡調整会議を開催。

【議事】

- ①みちのくインフラDX奨励賞(案)について
- ②令和4年度に実施した取組みの中間報告について
 - 1)ICTサポーター制度
 - 2)ICT地元経営者セミナー
 - 3)担い手育成確保に向けた新技術体験学習会



◆出席者

【学識経験者】 東北大学大学院 高橋教授、皆川准教授
宮城大学 蒔苗教授

【国土交通省】 東北地方整備局

【自治体】 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、仙台市
【建設業者団体】

東北建設業協会連合会、日本建設業連合会東北支部、日本埋立浚渫協会東北支部、日本建設機械施工協会東北支部、建設コンサルタツ協会東北支部、東北測量設計協会、東北地質調査業協会、日本建設機械インフラ協会東北協議会、建設電気技術協会東北支部

2)ICT地元経営者セミナー

- ・ICT施工の普及拡大に向け2地区で開催(福島会場:27名、青森会場:9名)
- ・次年度以降も継続し、自治体や関係省庁と連携し開催する予定。

3)担い手育成確保に向けた新技術体験学習会

令和4年度の活動実績を中間報告(2月20日現在)

- ・次世代を担う若手技術者向けの体験学習会を実施(延べ 約810名)
- ・令和5年度の取組み検討(案)
 - 小学生向けの体験学習会を追加。
 - 官民連携した取組みを地域体制に移行(各県単位で官民が連携して開催を検討)

【議事】 ①みちのくインフラDX奨励賞(案)について

東北地方におけるインフラ分野のDXに係る優れた取り組みを表彰するため、既存の「みちのくi-Construction奨励賞」を「みちのくインフラDX奨励賞」へ名称変更を提案。
また、選定基準および表彰予定について説明。

【議事】 ②令和4年度に実施した取組みの中間報告について

1)ICTサポーター制度

- ・運用開始後8ヶ月の活動状況を報告。
(累計313件:技術支援 58件、相談 255件)
- ・特定の技術分野に活動が集中していることから体制強化に向けて、サポーターの追加募集を提案(2月28日から募集開始)

【情報提供】

- ・東北地方の公共工事品質確保のための連絡会議について概要説明。
- ・東北インフラDX人材育成センター、東北インフラDXルームについて概要説明。

－ 有識者からのコメント －

- ・今後、ICTサポーター制度を拡充していくためには、サポーターとしてのメリットが必要と思われる。
- ・新技術体験学習会は、学校側も機材等が無いため貴重な機会だと考えられる。また、教員や生徒の意見含め開催内容の検討が必要。
- ・小学生の親子を対象とした体験会を検討してほしい。
- ・東北インフラDX人材育成センターを活用して若手技術者のスキル向上が重要。
- ・学生達が建設業界に興味を持ってもらうため新技術体験会等でVRやMR体験を継続して取り組んでいくことが重要。